

天草家保通信

熊本県天草家畜保健衛生所 〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場1706-3
 電話番号 0969-22-3668 ファックス番号 0969-24-4393
 ホームページアドレス <http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kaho/index.htm>
 電子メールアドレス amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp

平成21年度熊本県支部鶏病技術研修会が 開催されました。



8月28日（金）、城南町にある熊本県中央家畜保健衛生所の研修室にて、平成21年度熊本県支部鶏病技術研修会が開催されました。

研修会では、熊本県の5つの家保や（財）化学及血清療法研究所より話題提供がありました。天草家保からは安田技師が「小規模飼養者への防疫対応の現状と課題」として、管内の鶏を飼養している離島を除く全ての教育現場においてニューカッスル病ワクチンの接種が達成されていることや、苓北町鶏自衛防疫協議会について発表しました。また、下記のとおり、特別講演もありました。

特別講演

「京都府における高病原性鳥インフルエンザ発生時に埋却した処分鶏等の最終処理」

京都府南丹家畜保健衛生所 寺石武史先生 のまとめ



研修会の様子

< 京都府で発生した鳥インフルエンザ（1例目） >

「まん延防止と早期終息のため最終処理を前提に密封して埋却」

発生場所地勢：府県境、分水嶺、地域の水源、近隣に農地宅地

地域に協力要請、理解・説得に困難を要した。

汚染物品量：処分鶏22万5千羽、鶏卵他合計649ト、大量

「埋却期間 平成16年3月13日～平成19年12月27日」

必須対応：埋却値の管理、周辺環境モニタリング 定期的な検査を実施
 試験掘削、台風による自然災害時の補修、地元説明会

「埋却物の最終処理 平成19年12月27日～平成20年4月18日」

（掘り起こして産業廃棄物として焼却処分）

専門家へ諮問（最終処理時の周辺への影響、作業の安全性）

埋却物の状態：腐敗～液状化せず、ほぼ原型を保持

延べ動員数：970名（実働81日間 毎日現場立合）

処理経費：約2億7,000万円

1 はじめに

国内の鶏を取り巻く防疫事情は、高病原性鳥インフルエンザ（以下HPAI）やニューカッスル病（以下ND）の発生など常に油断できない状況。特にNDはワクチン未接種の愛玩鶏での発生も見られ、防疫意識が低い小規模飼養者（学校教育現場を含む）への対応がこれからの課題。

そこで家保では、平成18年度から小規模飼養者を対象に、市町、教育委員会、民間獣医師との連携を図り、NDワクチン投与を中心とした防疫支援を開始。現在、天草地域の教育現場では、鶏を飼養している全施設（離島1現場を除く）においてNDワクチン投与が実施、また、一般小規模飼養者ではモデルの苓北町において鶏自衛防疫協議会の活動の一環としてNDワクチン投与を実施、その概要を報告。

2 管内の小規模（100羽未満）飼養者

学校教育現場：43施設（小学校39、保育園3、幼稚園1）

一般小規模飼養者：970戸

なお、100羽以上の養鶏農家は21戸（採卵12戸、肉用9戸）。うち、1,000羽以上は9戸。

3 教育現場への対応

（1）経緯と現状

隣県でのNDの続発を契機に管内防疫体制の強化を図るため、平成18年度から既存の動物由来感染症監視体制整備（教育現場型）事業を活用し、教育現場における衛生検査等に加えて、新たにNDワクチン投与を開始。現在、年度当初に各市町の教育委員会を通じて飼養施設を把握するとともに、委員会主催の会議において各施設の教諭等を対象にワクチン投与（年2回）をはじめとする衛生意識を啓発し、巡回日程等の打ち合わせを実施。今年度の第1回目のワクチン投与は離島の1小学校を除く42ヶ所で8月6日までに終了。

（2）地域の民間獣医師との連携

当初、ワクチン投与の開始に当たり、各地域の獣医師個々に対し十分な説明を行い協力体制を整備。獣医師は施設への往診と投与指導を実施。現在5名の獣医師が42施設を10地域に分け担当。

4 一般小規模飼養者への対応

（1）経緯と現状

平成16年のHPAIや隣県でのNDの続発を契機に、一般小規模飼養者における効率的な防疫対応を行うため、モデル町として苓北町に対し鶏防疫協議会の設立を支援、18年度に設立、活動が開始。当協議会は地域のリーダー的な飼養者が会長となり、現在、会員17人（今年度2人加入）が積極的な活動を行い、開業獣医師、農協、事務所の役場と連携を図りながら、NDワクチンの接種の他、衛生管理の向上など防疫体制の強化に取り組む。今年度も鶏飼養衛生研修会を開催、家保は講師として飼養衛生管理やワクチン投与方法の再確認を依頼。また、5～6月に家保も同行した地域獣医師との連携による春季の衛生検査や第1回目のNDワクチン接種を実施。第2回目のNDワクチン接種は11～12月の秋季に実施予定。

（2）会員の飼養衛生意識調査

アンケートを実施した12人中9人が、協議会に加入後は鶏の日常の健康状態に注意するようになり、鳥小屋の掃除や消毒回数が増加したと回答。

5 衛生検査等の成績

（1）NDワクチン接種効果の検証

今年度の教育現場の往診時に採血した22ヶ所（21小学校1幼稚園）の32羽と、小規模飼養者の巡回衛生指導で採血した11戸49羽についてNDの抗体検査を実施。結果、教育現場ではGM値19.4（2～256）、小規模飼養者ではGM値40.9（<2～256）なり、全体的にはいずれも十分な抗体価が確認されたが、一部の飼養者では十分な抗体価が確認できないところもあり。

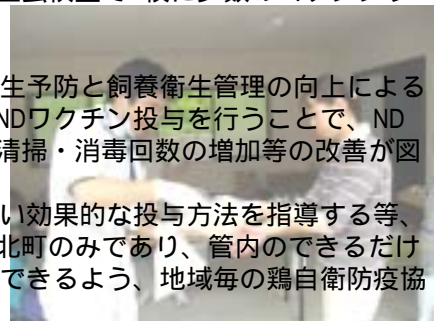
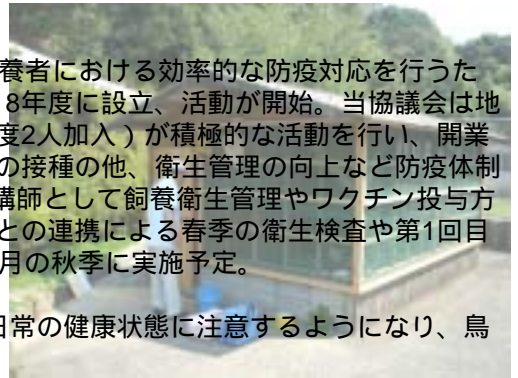
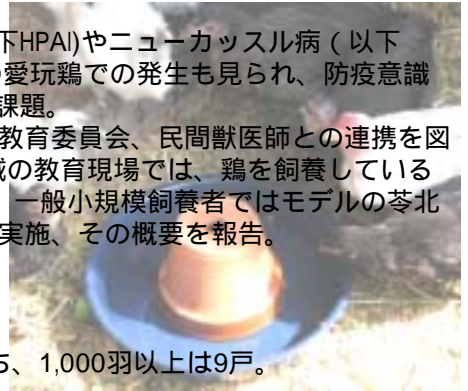
（2）細菌・寄生虫検査結果


教育現場で飼育されている11校の鶏について、細菌検査（サルモネラ、キャンピロバクター）や寄生虫検査（コクシジウム）を実施。細菌検査はすべて陰性であったが、寄生虫検査で1校に少数のコクシジウム寄生があり。

6 まとめおよび考察


教育機関や苓北町の小規模鶏飼養者では、NDワクチン接種による発生予防と飼養衛生管理の向上による防疫体制の強化が図られている。特に、これまで実施していなかったNDワクチン投与を行うことで、NDのみならず他の疾病に対する衛生意識も向上し、観察の励行や鶏舎の清掃・消毒回数の増加等の改善が図られた。

今後はNDの抗体上昇が確認されなかった飼養場に対し原因究明を行い効果的な投与方法を指導する等、本疾病の発生予防を更に強化。また、一般小規模飼養者への対応は苓北町のみであり、管内のできるだけ多くの小規模飼養者に対し飼養衛生管理基準やNDワクチン投与が普及できるよう、地域毎の鶏自衛防疫協議会の設立等に向けて支援を継続。（完）





豚の飼育施設等における 防蚊対策(日本脳炎対策)について



日本脳炎ウイルスは、ほ乳類、鳥類、節足動物（蚊）等に感染し、豚では妊娠豚の流産や種雄豚の精巣炎、馬では神経症状等を引き起こします。

また、原因ウイルスが豚の体内で増殖し、蚊を媒介して人に感染することが知られており、昨年度には、成人の発生が3例報告され、熊本県でも8/29に日本脳炎注意報が発令されました。

厚生労働省からも、豚の飼育施設等における防蚊対策について通知があります。

関係者の皆様には、豚飼育施設等における適切な防蚊対策【下記「ブタの飼育施設等における防蚊対策について」（平成21年7月30日付け「健感発0730第4号」）厚生労働省健康局結核感染症課長通知より転記】について留意して頂きますようお願いいたします。

1 ブタが蚊に刺されない環境作りについて

豚舎において、媒介蚊（コガタアカイエカ）との接触を避けるために、戸内の豚舎での飼育に努めること。

2 豚舎内の蚊の駆除について

豚舎内の蚊を駆除するために、豚舎内のか壁面や防鳥ネット等への定期的な薬剤（ピレスロイド系）の散布等に努めること。

（参考）

- ・コガタアカイエカは、小さな水たまりではなく、水田や沼地に生息します。
- ・蚊は、吸血すると、その後壁面に留まり休息する性質があるため、豚舎内の壁面や防鳥ネット等への薬剤の散布が効果的です。
- ・有機リン系の殺虫剤では、コガタアカイエカに耐性が生じることが認められているため、ピレスロイド系の薬剤を使用する必要があります。
- ・豚舎にライトトラップ（ブラックライトの蛍光管）を設置し、蚊の駆除を行うことも豚から吸血する蚊の数を減少させる効果が期待できます。

！？

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。
天草家畜保健衛生所 電話番号 0969-22-3668